

聖ウルスラ学院英智報

ウルスラ 英智

vol.33 2012. 9. 1

特集

幼小中高15年間にわたる
ウルスラ英智の一貫教育



法領塚古墳に隣接した一本杉キャンパス
小・中学校新校舎をバックに



聖ウルスラ学院 理事長
梶 田 叡 一

ごあいさつ

本学院は、学校法人設立60周年の佳節を無事に迎え、一段とレベルの高い優れた教育を行うことを目指して、日々努力を重ねています。私たちが持つ基本的な願いは、一人ひとりの子どもが個性的でしっかりした人間として成長し、広範な学力を着実な形で身に付ける（学力保障）と同時に、充実した幸せな人生を歩んでいけるための人間的な基礎づくりをする（成長保障）ということです。

本学院の建学の理念は、キリスト教的伝統にあります。ヘブライズム（ユダヤ教的伝統）とヘレニズム（古代ギリシャ的伝統）を土台に発展してきたキリスト教は、現代社会において、神の前の平等と隣人愛、そして無私の精神を強調します。またこれと同時に、知性と理性の耕しを大事にします。

また本学院は、一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという由緒を大切にしています。仙台の地に花開き培われてきた豊かな伝統・文化を手掛かりとしつつ、我が国に古来積み重ねられてきた人間教育の精髓を、次の世代を担う子ども達に着実に身に付けさせていきたいと願っています。

私たちは、こうしたキリスト教と日本の精神文化という深い伝統に立ち、世の中のために働く力（＜我々の世界＞を生きる力）も、また自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力（＜我の世界＞を生きる力）も共に育つよう、日々の教育的取り組みに努めております。

このような本学院の教育のあり方について、どうかご理解いただき、倍旧の暖かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

小・中学校校舎移転新築をはじめとする教育環境が整備される中での教育活動の展望について

座 談 会

【参加者】

座長 本学院理事長	梶田 叡一
本学院小・中学校、高等学校長	伊藤 宣子
本学院幼稚園長	佐取美智子
本学院法人事務局長	高橋 直見(司会)



◎司会

- 昨年度学校法人聖ウルスラ学院は設立60周年の節目を経ました。
- 60周年記念事業の目玉として「小・中学校校舎移転新築」があり、建物をはじめとする教育環境が整備されました。現在、一本杉キャンパスで小・中、高校の児童・生徒約1,300名が一つに集い、活発な教育活動を行っています。
- また、本学院では、数年前から「教育特区」の認定や「教育研究開発学校」としての指定を受け、先駆的な取り組みを続けています。教育環境の整備とともに、今後の教育活動の中身、つまり教育の展望はどうなっていくのか語りあってみたいと思います。

- 教育環境が整備された中での教育活動の現状**はどうか、まず、梶田理事長に伺いたいと思います。つづいて、伊藤小・中、高校長に伺います。

◎理事長

- 法人設立60周年を振り返ると、幼稚園は1番早くから教育活動を始めたこともあって、近隣市民の信頼と評価を得て今日があります。
- 小・中学校、高等学校は、学習指導要領に基づき知的、身体的、文化的な活動を充実しなければならないが、教育環境の整備が整ったことにより、やりやすくなりました。
- 子どもたちの発達段階に応じた学習活動を充実させることで、それぞれの多様な個性をのび、花を咲かせるようにしたいと思います。

◎校長

- 小・中学校校舎移転新築という教育環境の整備が進んだことにより、キリスト教的人間観に基づく教育という本学院建学の伝統精神を踏まえ、変化の激しい時代教育課題をどのように取り込み、克服し、光り輝かせていくかが大切になっています。

- 小・中学校校舎が一つになったことにより、教職員の中に「私たちはチームで仕事をしている」という意識が高まりました。
- 例えば、小学校所属教員は中学校所属教員に率直に意見を言い、中学校所属教員は高等学校所属教員に対して、高校のコース毎の教育の特色などにも意見を言うようになり、建設的なコミュニケーションを深めています。
- 21世紀の本学院英智教育の光がみえてきたように思います。

◎司会

- つづいて、本学院は数年前から「教育特区」の認定や「教育研究開発学校」としての指定を受け、先駆的な取り組みを行っていますが、その手ごたえ、成果などについては如何でしょうか。梶田理事長と伊藤校長に伺います。

◎理事長

- 「教育特区」の認定は、小学校、中学校という区切りの拘束から自由になったこと、「教育研究開発学校」の指定は、学習指導要領という拘束から自由になったことです。



- 日本の教育が戦後推進してきた「よかれという拘束」でがんじがらめになっている現状から、国レベルで新しい教育の在り方を模索し始めたということになります。
- 幼小連携、小中連携、中高連携について、早くからその重要性が提唱されながら、遅々として進まなかったのは、「言うはやさしく、行は難しい」という現実がありました。幼、小・中、高のそれぞれの文化が定着しており、その違いを越えられない障壁ともいべき困難な課題があったためです。
- 本学院では、この困難な課題に対して、全国に先駆けて果敢に取り組んできました。具体の実践やその成果などについては伊藤校長に聴きましょう。

◎校長

- 「教育特区」の認定や「教育研究開発学校」の指定を受ける10年ほど前の本学院では、何かをやってみたいという空気がありました。そうしないと入学者数が減少し学校がもたないという危機意識でもありました。
- 具体として何を目標に、どんな方法で行動するかという暗中模索をしている状況の中に、梶田理事長が就任され、「教育特区」の認定や「教育研究開発学校」の指定を受けて、明確な目標を設定し、同時に具体の活動方法などを示されました。
- また、教職員は、文部科学省で日本教育の未来の在り方に取り組んでおられた常盤先生や先駆的取り組みで全国の注目を集めていた東京品川区の若月教育長から助言を受けるなど、貴重な体験も経ました。
- 7、8年を経た現在、全国の名のある私立学校や公立学校などが、本校視察に訪れるようになりました。このような現実をみると、本学院の教育成果が外部から評価を受けるまでになったという手ごたえを実感します。



◎司会

- 幼稚園は木ノ下キャンパスで教育活動を続けていますが、これまで一緒にいた小学校が一本杉に移転したことを受けて教育環境がどのように変わったのか、また、幼稚園舎の現状や今後の課題などについて、佐取幼稚園長に伺います。

◎園長

- 日常の小学生の姿をみて、園児や保護者に安心感がありましたが、その姿が消えて寂しくなりました。
- 幼稚園は学校法人聖ウルスラ学院校園の中で最も古い歴史があり、園舎の老朽化も進んでいますが、木ノ下に位置する幼稚園の規模や施設としては適正であると考えています。
- 今後、園舎改築の基本構想として、現状の募集定員を前提とした規模が望ましいと考えています。



◎司会

- 今後の幼稚園と小・中学校の連携については如何でしょうか。佐取園長と伊藤校長のご両名に伺います。

◎園長

- 幼稚園と小学校が同じ場所にあったことについては、メリットとデメリットの両面から考えたいと思います。
- 離れてみて、小学校をこれまでと違った角度からみえるようになったこともあり、特に、幼稚園と小学校の連携だけでなく、その先の中学校との連携も大切であると思うようになりました。



◎校長

- 幼稚園と小学校が離れたことを埋め合わせるためにも、関係者相互のコミュニケーションの推進や連携の深化を提案します。
- 例えば、両キャンパスの要所に日々の学院ニュースを知らせる掲示板を設置してはどうでしょうか。教職員だけでなく、保護者もその学院ニュースをみて、安心と親近感が増すのではないのでしょうか。
- また、連携方法の一つとして、夏休み明けには幼稚園の教職員に対する小・中学校の授業参観を企画しています。3歳児から5歳児の発達段階をみると大きな変化に驚きますが、脳科学や発達心理学の領域からも注目されている10歳児からの大きな変化にも目をみはるような驚きがあります。それらを踏まえた連携教育の研修を考えています。

◎司会

- 提言のありました掲示板の創設については、実現したいと思います。
- 最後になりますが、梶田理事長に伺います。2つのキャンパスにおける本学院幼、小・中、高の教育の連携について、大切なことは何でしょうか。
- また、一本杉キャンパスは男子高校生が増加傾向が顕著になってきているなど、施設上の課題も出てきました。
- 理事長にこの教育の連携や施設上の課題について、今後の展望を含めて伺います。

◎理事長

- 幸い、本学院においては、幼、小・中、高の園児、児童・生徒と一緒に学べる環境が整っています。
- 幼と小の連携は、全国でも取り組みが進行中で、その実現が難しい課題となっている現状にありますが、本学院ができる具体の方法は、例えば、体育行事や宗教行事を協同で実施すること、また幼、小・中の英語学習において、さらには、読み聞かせ学習などにおいても、共に実施できます。
- 高等学校までの連携については、発達段階を考慮した教育をベースに、けじめの学習も視野に入れる必要があります。
- 高校の男子増加に対応した教育や施設面の課題については、共生の感覚を育成することが大切です。男子の増加は元気で教育面で手のかかる生徒の増加につながる可能性もありますが、むしろそれを歓迎するという意識が正しいでしょう。
- 本学院は、発展期にある学校がもつ共通の課題に直面しつつあります。多様な才能を育て、花を咲かせる教育を推進したいと思います。

(座談会収録 平成24年8月14日)

聖ウルスラ学院英智 キャンパス統合 小・中学校 高等学校 校舎一体化事業

募 金 要 項

- 募金目標額 ▶ 1億円
- 募金期間 ▶ 平成26年3月まで
- 寄付金額 ▶ 1口 1万円(分割可)
- 寄付申込方法 ▶ (1) 寄付申込書に必要事項を記入の上、聖ウルスラ学院英智事務室に申込んでください。
(2) 専用の振替(振込み)用紙を利用の場合は、寄付申込書は不要です。
- 払込方法 ▶ 専用の振替(振込み)用紙を利用し、郵便振替、銀行口座いずれかで振込みをしてください。または事務室に直接持参してください。
- 寄付申込先 ▶ 学校法人 聖ウルスラ学院事務室内 募金委員会 TEL.022-286-5935
- 寄付金の免税措置 ▶ 本学院への寄付は税金の減免を受けられるよう、「特定公益増進法人」としての認可を受けております。また、日本私学振興・共済事業団の「受配者指定寄付金」制度を利用し、法人寄付金の損金算入をはかります。

特集

幼小中高15年間にわたる ウルスラ英智の一貫教育

我的世界と我々の世界を認識し、
希望ある自由と挑戦によって確かな
21世紀の「世の光・地の塩」として、

本学院の一貫教育とは・・・

「学校は勉強して賢くなるところです。」

この言葉は、伊藤宣子校長が、児童生徒に呼びかける言葉として
普段からよく口にしておられる言葉です。

では「賢くなる」とはどうなることでしょうか？
「勉強する」とは何をすることでしょうか？
少し難しいのですが、本校の考える
「勉強する」ことの中身、「賢くなる」ことの意味を
簡潔に図示してみましょう。
皆様も手でなぞりながら
15年間の教育がどこに行きつくのかを
お確かめください。



キリスト教的人間観に基づく 人格形成の教育

(信・望・愛・真・善・美)

我的世界と我々の世界で生きる力を育成

知性と心と理性の育成

確かな学力の向上と人間成長



幼稚園では神様の前に正しく
生きる子どもを育てています。



セカンドステージの
クリスマスオペレッタ。



宗教の時間には自分の成長と
他者への奉仕の精神を
養います。



合唱部による
クリスマス募金活動での
賛美歌合唱。

持続開発可能な教育を実践する
ユネスコスクールとして認可



最新のパソコンで
英語や調べ学習に
取り組みます。

価値志向力と現実検証力の育成

思考力・分析力・判断力・表現力

直観的思考力

直観的思考力

ランゲージアーツとしての



幼稚園の英語の時間では、日常生活の
中で生かせる英語を楽しく学びます。



楽しい授業の中で英語の
コミュニケーション力を養います。



絵本の読み聞かせ。
集中してお話を聞いています。

専門職教諭としてのレベルアップ研鑽(教職員の授業研修等)

学び方を教えることで、子ども自らが学習方法を見出す



幼稚園の図書室にはたくさんの本が
並んでいます。



生活科で朝顔の観察中。
どんな葉っぱの形かな？



理科の実験で電気を通すものを
調べています。

体験的知(学びの習得)

小・中学校義務教育 教育課程特例の

幼小連携教育

幼稚園			小・中学校 First Stage				小・中学校
年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年
幼児期			児童期				

入園

新入学

転入学

子どもの成長段階を検証しつつ

核となる子どもが他の仲間たちと共に子ども同士の教育力を発揮し

楽しい時間が はじまるよ！

いつも元気いっぱいの子どもたち。
その元気の源となっている
大好きな活動の様子をご紹介します。



リトミック音楽教育



年中(4才児)



年長(5才児)



年長(5才児)

子どもたちは、誰もがみな生まれながらにしてリズムを持っており、本来的に心に感じたことをすぐにでも表したいという欲求をもっています。

リトミックでは、子どもたちに音楽的な刺激を与え、それを受け止め、心に感じた事柄を創造表現していく方法を基本的に行います。(大きな音を感じたら大きな動き、弱い音を感じたら弱い動きなど)

これらの活動を繰り返し行う中で、音楽的能力を高めるだけでなく、集中力・反応力・創造性・社会性なども培い、心身共に明るく調和のとれた、感性豊かな子どもを育むことを目指しています。

本園では、1958年から、全国に先駆けてリトミックを取り入れ、1978年からは、リトミック専任教諭をおき、特色教育の充実をはかってきました。3才児は20分、4才児は30分、5才児は30~40分。それぞれの年令にあったカリキュラム、また、そのクラスにあった指導内容で、楽しくリトミックの時間を過ごします。子どもたちは、リトミックの時間をとても楽しみに待っています。

♪リトミックとは…

スイスの作曲家であり、音楽教育家でもある、エミール・ジャック=ダルクローズ(1865~1950)によって創案、確立された音楽教育法です。よい音楽と身体動きを通し、内的な音感覚やリズム感覚、さらには心と身体能力をも高めていこうとする音楽教育です。音楽的にも人間的にも伸びる、多くの要素をもったすぐれた音楽教育法です。

ある日のテ>

花の自由表現



年長(5才児)

体育教室

「こんにちは!」「よろしくお願いします!」と元気の
良い挨拶で楽しい時間が始まります。

最初は準備体操です。先生のユーモアのある掛け声に合
わせて身体を動かしていくと、身体が柔らかくなってくる
ようで、子どもたちも掛け声でリズムをとりながら、伸び
伸びと身体を動かしています。

マットやボールなどを使い、年齢や子どもたちの状況に
合わせた活動はみんな大好きです。笑顔と笑い声が絶えま
せん。最後には、全員で鬼ごっこです。もちろん鬼は身体
の大きい先生…つかまれないようにホールを走り回ってい
ます。

みんなこの時間を楽しみに待っています。



＜今日はボール活動の日＞ 年長(5才児)

楽しみながらボールに慣れ、サッカーやドッジボールの集団種目につなげていきます。

デイサービス訪問

～おじいちゃん・おばあちゃん こんにちは!～

年長組の『デイサービス訪問』が始まってから今年で10
年目になりました。地域の方と交流を持てることに加え
て、核家族で暮らしている園児にとってはお年寄りの方と
触れ合う良い機会にもなっています。

子どもたちが考えてきた“手遊び”や“肩たたき”を一
緒に行っている姿はとても微笑ましく、初めて会った同士
とは思えないような姿も見られます。そして「おばあちゃん、
やさしかったよ。」「歌上手だね、ってほめてくれた
の。嬉しかった。」と元気をプレゼントして愛情をたくさん
いただいて帰ってきます。

今年度も9月と1月に予定しています。



トントン肩たたき。
「おばあちゃん、
気持ちいい?」



なかよく手遊び。
♪お寺のおしょうさんが
かぼちゃの種をまきました～



みんなのうた、きいてね!



元気いっぱい、
ソーラン! ソーラン!

※写真は平成23年度のものです

第42回 世界児童画展

聖ウルスラ学院英智幼稚園

「都道府県団体賞」を受賞

全国 2,121 団体の中から、選ばれました。



第71回 全国教育美術展



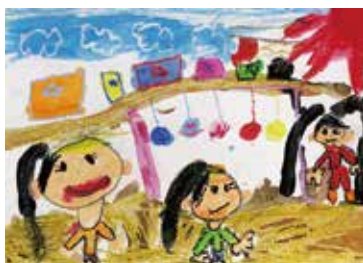
◆宮城地区審査 / 入選
「ふしぎな木」
紺野 薫子(年中 / 4 才児)



◆宮城地区審査 / 入選
「ふしぎな木」
館沢 都愛(年中 / 4 才児)



◆宮城地区審査 / 特選
「うんどうかい」
千葉ひなの(年長 / 5 才児)



◆宮城地区審査 / 入選「うんどうかい」
森谷 心羽(年長 / 5 才児)



◆宮城地区審査 / 入選「いもほり」
菅原 美海(年長 / 5 才児)

第30回 みやぎ児童画展

★世界児童画展同時出展



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 特選
「お父さん」
鎌田 亜沙美(年少 / 3 才児)



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 入選
「お父さん」
桜庭 詩菜(年中 / 4 才児)



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 入選
「あかあさん」
長谷川 莉央(年中 / 4 才児)



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 入選
「あかあさん」
館沢 都愛(年中 / 4 才児)



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 入選
「なかよしなぞく」
熊谷 大(年長 / 5 才児)



◆みやぎ児童画展 / 特選
◆世界児童画展 / 入選
「かば」 掘 心海(年長 / 5 才児)

●「みやぎ児童画展」において、特別賞・特選の受賞作品は「世界児童画展」に出品されます。

1年生を迎える会

新しい校舎になって、ファーストステージ1年生から4年生までが揃っての初めての大きな行事となりました。今までは、6年生が会の運営を行っていましたが、ファーストステージとしての行事となり、3・4年生を中心として進めることになりました。準備期間が短い中、大きな声で練習したり、会の中身を考えたりしました。初めてのながらも、大成功の行事となりました。これから始まるファーストステージ行事が楽しみです。



1 1年生が入場するために、3年生が花のアーチを作りスタンバイしてくれています。



2 1年生の入場が終わり、会の始まりです。4年生の代表児童が堂々と1年生へ向けて歓迎の挨拶をしてくれました。



4 2年生が1年生の時に育てたあさがおの種を首飾りにして、1年生にプレゼントしました。2年生は、ちょっぴりお兄さんお姉さんになったということと、とてもうれしそうです。



3 3年生の学校紹介です。学校では、ファーストステージのたてわり掃除活動があります。正しい掃除の仕方を教えてくれました。



5 最後に、1年生がこれからよろしくお願ひしますという感謝の気持ちを込めて元気な声で歌を披露してくれました。とても喜んでくれたようで、大成功の会となりました。

運動会

ファーストステージの行事の中でも、一番大きな運動会。今まで4年生から6年生が運営してきました。その運営すべてを3・4年生で行うこととなりました。運動会準備期間中、何度も集まり話し合ったり、担当の練習を繰り返したりしてきました。自分たちでこうしたいという考えや、家でも練習したい等、自分たちから意欲的に取り組むことができました。当日は、晴天の中、どの学年も素晴らしい演技や走りを見せてくれました。そして3・4年生の力強い運営のおかげで大成功の運動会となりました。



1 さあ、これからいよいよファーストステージ大運動会の始まりです。入場行進のスタンバイをしています。3・4年生が校旗を持って堂々とした入場行進となりました。



2 3年生の徒競走です。どちらが勝つのでしょうか！ファイト！



3 各学年の競技中に、率先して応援をしている赤組です。プレー赤組！



4 3・4年生の表現「すずめ踊り」です。短い時間の中で何度も練習を行いました。動きがなかなか揃わなくて苦労しましたが、最後はしっかりと決めポーズもでき、大成功でした。



5 特別友情出演のセカンドステージ5・6年生です。毎年、ファーストステージのみんなが楽しみにしている「鼓笛隊」です。足踏みや楽器の音がきれいに合った素敵なステージでした。

5～7年生/遠足〈山形県・山寺方面〉

校外での活動を通してステージ内の絆を深めるとともに、東北の自然・文化に触れ、学びを深めます。

「立石寺」散策



五大堂にてグループ毎の集合写真。リーダーを中心に、助け合いながら1,015段の階段をのぼりきりました。

5年 大和 舜

遠足に行く前の準備や当日の活動を通して、仲間の大切さを知りました。また、虫や鳥の声、川を流れる水の音など、自然の美しさを楽しむことができました。

5年 佐藤 千彩

遠足では、今まで話したことなかった上級生と関わりをもつことができました。これからも上級生と積極的に話をし、セカンドステージの絆を深めていきたいと思います。

7年 小菅 琉哉

山寺の森林の中は、気分がいやされる空間でした。森林をめぐって、上から見た景色は最高でした。山寺では仲間と協力し、景色を楽しめるいい機会になりました。これからも仲間との協力を大切にしていきたいです。



ウォークラリーをしながら山寺をのぼります。縦割りのグループで協力しながらクイズに答えます。学年を超えた仲間の絆が深まりました。

セカンド S ステージ の取り組み

「平清水焼」手作り体験



平清水焼体験。世界にひとつだけのオリジナルの作品を真剣に作っています。

6年生/宿泊学習〈日光・那須方面〉

6年生の宿泊学習は、これまでに学習した英語を使って、この行事のために来日したアメリカの学生たちと、2泊3日の共同生活をします。英語でしかコミュニケーションがとれない環境で、生きた英語を身につけていきます。



日本文化の紹介で書道を披露しました。



アメリカ人のお兄さん・お姉さんと積極的にコミュニケーションをはかりました



日光東照宮では英語のガイドを聴きました。



ゲームをしながら英語の力を磨きました。



すっかり打ちとけて、楽しく食事。もちろん会話は英語で!

7年生/宮城県美術館学習

宮城県美術館で開催されていた小企画展
「ルーブル美術館からのメッセージ: 出会い」にて
～「言語技術」の絵の分析が動き出します～

学芸員さんから鑑賞の仕方について講習を受けた後、じっくりと絵を味わいました。



本物の「受胎告知」(ジョヴァンニ・バッティスタ・サルヴィ)は生徒は何を語りかけているのでしょうか。



言語技術のテキストにも掲載されている「クリスティーナの世界」(アンドリュウ・ワイエス)の習作。分析的な目で見つめ、活発に議論を交わします。



グループごとに、指定された常設展の3点の絵の中から1点を選び、絵の分析をしています。場所は?季節は?天気は?時間は?誰が何をしている?根拠を絵の中の情報から導き出します。学校に戻ってから分析文を書きました。

5～7年生/芸術観賞会

7月には、芸術鑑賞の一環としてオカリナとギターの演奏会が行われました。聖堂にオカリナとギターの音色が響き渡り、演奏会の後、生徒たちは「まるでオカリナが歌っているようでした。」「心がほっこりしました。」と感想を綴っていました。心穏やかになった一日でした。



平泉に学ぶ世界遺産・文化遺産

ユネスコスクール生徒として

Type1コースクラス8年1組 飯塚ふうな

この平泉宿泊研修の事前学習で、私は中尊寺について調べました。調べ学習を進めていくにつれ、いろいろなことを知ることができました。その中で特に興味を持ったのは、藤原氏と中尊寺との深いつながり、多くの国宝・重要文化財を収蔵している讃衡蔵についてです。

宿泊研修本番で私は、クラスのみんなが調べたことにも興味を持ち、平泉の文化、風土、歴史を学ぶ、という目標を持って出発しました。実際に平泉では、思っていた以上の自然の持つ素晴らしさを学ぶことができました。また、今から千年以上前の人々の書画、仏像、仏具、経典や副葬品といった文化財を拝観することができ、昔の人々の生活を身近に感じることができました。特に私が興味を持っていた中尊寺については、自分で調べた事以上の話をガイド



世界遺産をバックに



中尊寺にて座禅体験

さんがしてくださったり、紹介されていたりと、とても勉強になりました。たとえば、最近までは円仁が開山康弘台寿院を開創したのが中尊寺の始まりだといわれていたのに、現在、実質的な裏付けが取れず、藤原清衡が多宝寺を建立したのが始まりと言われている、などのような「知る人ぞ知る」話をたくさん聞いて知識を深めることができました。

今回の研修は、ユネスコスクールの生徒として、世界遺産や地域文化に関する知識を深められ、ひと回り成長することができました。これからも、この研修で経験したこと、学んだことを生かし、充実した学校生活を送っていきたいです。

2012年1月17日、
ユネスコスクールに認可されました。



「ユネスコスクール」は、1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足されたものです。

本校はユネスコの理念に沿った国際理解教育、地球規模の諸問題への積極的な取り組みを継続的に実施していることが認められ、県知事部局～日本ユネスコ国内委員会事務総長(文部科学省国際総括官)からの申請を受け、この度ユネスコ本部より認可されました。

これからのThird Stage～サードステージ～

サードステージは小中一貫のHop Step Jumpで言えばJumpの時。しかしながらこのJumpは8・9年生の2年にとどまらず、高校までの5年間のジャンプである。そういえば陸上の三段跳びにおいてもこのジャンプはもっとも長い距離を跳ぶわけで、なんとなく理に合っているような気もする。

すでに7年生で志を立て、Type1またはType2を選んでいる生徒たちは、そのそれぞれの高校のコースと一緒に生活することになるわけだが、Type1・2とが一緒に作る行事がないわけでもない。8年生においては既に7月に行われた平泉方面の世界遺産宿泊学習、9年生においては10月に行われるオーストラリア・ケアンズ異文化体験旅行がそれである。

前者はこのページの記事をお読みいただくとして、9年生のケアンズは今年で6年目。とはいえ1回はインフルエンザの大流行で変更を余儀なくされたので、都合5回目ということになる。ケアンズでは、日中は確かに観光メインな感じのスケジュールであるが、5日間の滞在のうち3泊はホームステイをして現地の一般家庭での生活になるわけで、本当のメインはこのホームステイと言ってもいいであろう。生徒には是非今までの学習の成果を積極的に試してもらいたい。

小・中学校 主幹教諭 鹿野 紀幸



オーストラリア・ケアンズ異文化体験旅行で
ホストファミリーとの交流や現地の自然や歴史、文化を学びます。

さて、校舎が一本杉に建ち、名実ともに小中一体になったわけであるが、サードステージは今、9年間の最上級生としての認識を新たにしているところである。この刺激は思いの外「なかなかのもの」である。そしてこれからは、ジャンプの5年間をどう筋立てていくかが重要になる。このやりがいのある課題に学院全体で取り組んでいきたい。

心と体のさわやかな成長

マリア祭

毎年5月は、マリア様に捧げられた月です。一ヶ月を通して、マリア様のような清い心で、毎日を過ごすことができるようにお祈りをします。今年行われたマリア祭は、小・中学校の新しい校舎が完成して初めてのマリア祭となり、全校児童・生徒が共に集っておこなわれました。1年生から9年生までが、そろってマリア様に心をむける時間です。

マリア祭の始まりは、6・7年生が歌うアルカデルトのアヴェマリアです。ファーストステージの児童は折り紙などでマリア様へのお花を作り、おささげしました。セカンドステージ、サードステージの児童生徒は、献金して買ったお花をおささげしました。

その後、ファーストステージの児童が作ったお花は1階ホールのマリア様へ、セカンドステージ、サードステージ生は、普段お世話になっているかたがたへ、お花をお届けしました。



1年生から9年生までが揃ってお祈りをささげました。



6・7年生が「アヴェ・マリア」を歌います。



マリア様にお花をおささげします



たくさんのお花をマリア様におささげしました。



校長先生にお花をお届けしました。



修道院にもお花を届け、シスターにウルスラの歴史をお話いただきました。

学級菜園

今年度からグリーン広場のわきに学級菜園ができました。菜園にはさつまいもやオクラ、大豆、ジャガイモなどの野菜の他に、ひまわりやサルビアなどの花も植えられています。秋には野菜の収穫が行われます。子どもたちは収穫の時を楽しみにしています。野菜や花などの植物を育てることによって、食べ物の大切さやどれほどの手間がかかっているかを子どもたちに体験して欲しいと思っています。

子どもたちは植物が育つように水やりなどの手入れを欠かすことなく行っています。小学生から高校生までが一緒に畑を使っているの、手入れをしているときに、自然と異学年間の交流をはかることができます。同じキャンパスでも、なかなかふれあう機会が持てない学年もあるので、他の学年とも交流できる学級菜園になってほしいと思います。



みんなでやさしく土をかぶせます。



はじめはこんなに小さかった苗。



セカンドステージは、みんなでサツマイモを植えました。



きれいに苗を植えられました。



3ヶ月後にはこんなに大きく育ちました。



4年生が育てている大豆。しっかり実がなりました。

「成長」の中で 進路開拓をしていった7期生

7期生は、入試制度の大きな変更や震災の影響があり、先が見えにくい不安な状況の中で、一人一人がこれまで生きてきた18年の努力の証として、志望とする学校の合格を勝ち取り進路開拓実現を果たしました。特に東京大学に文系・理系それぞれに進学を果たした二人は、幼稚園から、あるいは中学校からウルスラ英智で学び育った生徒で、その学びは後輩のあこがれであり、みなに希望を与えていきました。

今年度はいよいよ在籍200名を超え、小・中学校と高等学校の校舎が別となりましたが、中学・高校5学年一貫教育を念頭に置き、生徒も先生方も合同で特志Type1の活動を行っています。今年の高校1年生はコース設立以来初めて3クラスとなり、小・中学校から進学してきた生徒で構成されたクラスができました。そのクラスの生徒たちはType1コース生として自分たちが先輩であり、中学2年間の壁を乗り越えてきたというプライドと高校の1学年をリードしていく気概を持って、学習、生活両面において模範になろうとする意識を高めながら日々生活しています。全員が向上心を持って深い学びができる生徒になってほしいと思っています。

7期生36人 合格実績

●国公立大学

大学名	学部	人数
東京大学	文科3類	1
	理科1類	1
東北大学	経済学部	1
名古屋大学	理学部	1
千葉大学	工学部	1
横浜国立大学	教育人間学部	1
滋賀大学	経済学部	1
宮城教育大学	教育学部	2
岩手大学	教育学部	2
	工学部	1
山形大学	医学部	1
	理学部	1
宮崎工業大学	工学部	1
宮城大学	事業構想学部	3
	食産業学部	2
高崎経済大学	地域政策学部	1

●その他

学校名	専攻	人数
気象大学校		3
防衛大学校	人文・社会科学専攻	2
	理工学専攻	3
海上保安大学校		1
他		1

●私立大学

大学名	学部	人数
慶應義塾大学	医学部	1
	薬学部	1
	理工学部	1
	政治経済学部	1
	法学部	3
早稲田大学	教育学部	1
	人間科学部	1
	基幹理工学部	1
	先進理工学部	2
	薬学部	1
東京理科大学	理学部	2
	理工学部	4
	経営学部	1
	法学部	7
	商学部	6
	文学部	2
中央大学	経済学部	4
	総合政策学部	4
	理工学部	1
	商学部	3
	法学部	2
	政治経済学部	4
明治大学	経営学部	1
	文学部	1
	情報コミュニケーション学部	1
	理工学部	8
	農学部	3
	文学部	3
	経済学部	6
	法学部	6
立教大学	現代心理学部	1
	社会学部	4
	コミュニケーション福祉学部	4
	観光学部	4
青山学院大学	文学部	1
	法学部	1
	社会学部	1
法政大学	経済学部	1
	経営学部	1
他		1

今年も東京大学に合格！



東京大学 文系Ⅲ類 入学
鈴木 悠太さん
(聖ウルスラ学院英智中出身)

公立小学校6年の時、担任の先生が、話題になっている学校ということで聖ウルスラ学院英智中学校のプリントを配ってくださいました。そして親と相談し、受験することにしました。今思えば本当に偶然的、でもひょっとしたら必然の出会いでした。

英智中学校に入って小学校の時とは何もかもが大きく変わり、問題集も難しくなり、授業によって違う先生方も新鮮でした。今振り返ると、受験に繋がる基礎を大事にしてくださっていたことがよくわかります。オーストラリアのケ

昨年度初めて東大に合格した成澤柊子さんに続いて、今年度は東大に2名が合格しました。文Ⅲの鈴木悠太さんと理Ⅰの庄子惟さんです。24年3月に卒業した7期生36名はこの他にもめざましい合格実績をあげ、さらに中高一貫の5学年制も着々と成果をあげて、Type1は今、新たなステージを迎えようとしています。

アンズへの修学旅行は今でも鮮明な、楽しくてかけがえのない思い出です。

そして高校Type1の先生方には入学式前から受験前日まで、3年間本当にお世話になりました。クラスのみんなにも支えられました。そして東大前期試験はただひたすら自分の答案を書くことに集中できました。

現在私は駒場キャンパスで日々勉強に精を出しています。自分の好きな講義を取れるというのは最初は戸惑いもありましたが、その自由度の高さが伸び伸びしたい感じます。そしてその傍ら合唱部の活動にもいそいそしています。

英智の中高の先生方、本当にありがとうございました。帰省したときには話に付き合ってください。

Watch◆特志Type1の魅力に迫る！

科学を楽しく——特別志学コース講演会

東京理科大学学長であり、光触媒を発見なさった世界的研究者である藤嶋昭先生をお迎えして、5月に本校で講演会が行われました。「身のまわりにはおもしろいことが多い——感動しつつ科学を楽しく」と題する先生の熱いお話に、Type1の8年生から高校3年生までの5学年200名が引き込まれました。講演後の会場での質問コーナーには生徒たちの長い列ができ、先生とのやり取りで会場は熱気に包まれました。



参加後の 生徒の声

科学を楽しむ——改めて、科学は日常生活と結び付いていることに気付かされた。先生の光触媒の研究とその具現化とのリンクがすごい。今でもたくさんのことに疑問を持っていらっしゃる。今日お話を伺って、大学に行く意欲が本当に高まった。そして、社会に貢献できる研究者になりたい。(O.T)

体育館に大歓声

7月、Type1のバレーボール大会が行われました。学年を縦割りにした男女それぞれ16チームがトーナメントと決勝リーグを戦い、先輩後輩の交流の輪が広がりました。普段の勉強を離れて伸び伸びと体を動かし、大声援を送り、開会宣言に爆笑しました。さらに優勝チームと先生たちのチームのエキシビジョン試合で盛り上がりしました。



部活動両立型特志Type2 ～6期生を迎えて～

本コースは、学業と部活動・校外活動の両立をサポートし、豊かな人間教育を志向したコースです。今年は6期生として88名の新入生を迎えることができました。今年も定員の60名を上回る生徒が入学し、Type2生は中高合わせて350名を超えました。学校生活では休み時間、授業後や放課後等に質問に来る生徒が絶えず、また部活動も所属率が80%を超えるため、校舎全体が活発な雰囲気に満たされています。そして今年の春は、50名の3期生がそれぞれの夢をかなえ学び舎を巣立っていきました（進学先参照）。

本コースでは設立当初から特色教育として「朝課外」、「東北福祉大学との高大連携授業」、「フランス語」等を取り入れています。そして今年も生徒たちが仲間を募り、先生の空き時間に演習授業をお願いするという「自主課外」が夏休みに行われました。生徒たちが自ら学校生活をより良く作り上げようとして出てくる行動力にはとても感心させられました。



第6期生

◆ 3期生の主な進学先

宮城大学、山形大学、上智大学、法政大学、東洋大学、東海大学、日本大学、東北福祉大学、東北学院大学、東北薬科大学等

Type2での学びの日々

6期生 1年
竹山 立志



中学3年生時、当時のウルスラ生であった友人の姉に、進学指導に熱心で、先生方の授業が分かりやすく、大学に関する行事が多いといったウルスラの利点を教えてもらいました。話を聞いて、どの私立の高校より気に入ったので、Type2を受験しました。

聞いていた話に対し、入学するまでは不安を抱いていましたが、学校生活がスタートするとどれも真実であり、充実した毎日を送っています。また所属しているサッカー同好会でもウルスラの特色である礼儀が大切にされ、先生方はもちろん、生徒たちも常に行動の基本にしています。

これからも感謝の心を忘れず、勉強・生活の両面からたくさんのことを学び、力を発揮していきたいと思います。



Watch◆特志Type2の魅力に迫る！

大学見学研修会

4月に入学した特志Type2・6期生もお互いに打ち解け合い、切磋琢磨しながら、毎日の学習に励んでいます。そんな中6月25日・26日の2日間、大学の雰囲気を知り、進学意欲を高める目的で、早稲田・慶應・上智・明治の4大学に、見学に行ってきました。生徒たちは事前学習で、これら4大学の特色を調べており、この日を楽しみにしていました。

実際に目で見えた4大学は、生徒たちの想像以上にすばらしいものであったようで、その設備や学習環境の良さ、学生の質の高さ、外国人留学生の多さに大変感銘を受けて帰ってきました。この大学見学研修会を通して、生徒たちは大学進学の意味と目的を再確認し、毎日の学習を一層大切にして志の実現に向かっていこうと、決意を新たにしました。

◎慶應義塾大学
国の重要文化財である
図書館旧館にて



◎早稲田大学
学生によるキャンパスツアー



◎上智大学
Type2 1期生、現 外国語学部フランス語学科
3年生の阿部葉さんと

尚志コース初の男子生徒！毎日元気に頑張っています。

尚志コースは、女子高時代からの伝統を受け継ぐ「女子コース」として長く運営されてきましたが、今年度、初めて男子生徒を迎えました。男子の募集は、推薦入試のみで、「部活動において優秀な技能・力量を持ち、全国大会出場を目指してそれを継続向上させることを志す者」という条件で行われ、初年度の今年は、募集定員10名程度のところ6名の新入生を迎えることができました。男子生徒一期生たちは、少人数ながらも、毎日明るく元気に生活しており、コースに新しい風を吹き込んでくれています。

男子1期生として

尚志コース 1年 菅原 栄史

僕は、昨年度まで女子コースだった尚志コースに、男子一期生として入学しました。中学までバドミントンを頑張ってきた自分にとって、勉強と部活動の両立ができること、そして、将来のことを考えて、この尚志コースを選びました。僕は、高校でもバドミントンに精一杯取り組み、インターハイで好成績を修めて、バドミントンが強い大学に進学して活躍することを目標としています。その目標を叶えるには、この尚志コースがぴったりだと思っています。

今年の尚志コースの入学生は132人で、そのうち男子は6人だけです。上級生には女子しかいないので、コース全体で407人中、たった6人の男子で頑張っています。初めは、不安や緊張がたくさんありました。もちろん、男子の意見が通りづらいと感じることもありますが、今では慣れてきて、声を掛け合ったり、協力し合ったりして男女仲良く過ごすことができています。少人数の男子の中でも、全員で団結するとともに、お互い競い合い向上心をもって勉強や部活動に励んでいます。このコースの名の通り、「志を尚く（たかく）」持ち、夢に向かって日々前進していきたいと思っています。



Watch◆尚志の魅力に迫る！

初めての「遠足」に行ってきました

7月4日（水）、快晴に恵まれた中、尚志コースの在籍生全体で大型バス12台を連ね、山形まで「遠足」に行ってきました。これまで尚志コースにはなかった行事なので、コースとしては初めての「遠足」でしたが、「季節の自然を体感しよう！」というテーマのもと、シーズン最後の「さくらんぼ狩り」を思う存分楽しんできました。「さくらんぼ狩り」のあとは、仙台ハイランドに移動してバーベキューをお腹一杯食べ、最後に遊園地で少しだけ遊んで帰ってきました。天気は、もうこれ以上ないくらいの快晴で、季節の自然を体感できた素晴らしい一日となりました。



フレッシュなサクランボを満喫



仙台ハイランドでバーベキューランチ



10年目を迎えた「進路見学・体験・相談会」

尚志コースでは、生徒の多様な進路目標に対し、それぞれに十分な対応をしていくために、2年次から各自の進路の目標に応じた「系」に分かれて学びます。そのため尚志コースの生徒は、1年次の秋に、自分が進む「系」の選択を行います。その選択に先立って実施されているのが「進路見学・体験・相談会」です。この企画では、毎年12～14コースを設定して様々な職場や大学などを訪問し、それぞれの職業について、あるいは大学やそこで学ぶ学問分野についてなど、深く理解する機会を持っています。最近ではコース行事としてすっかり定着してきたこの企画も、今年で10年目というひとつの節目を迎えました。10年目の今年も全12コースを設定し、6月28日に実施しました。尚志コースでは、このような取り組みを通して、多くの生徒が1年次のうちに自分自身の進路の目標と本気で向き合い、将来の夢にむけての努力をスタートさせています。



薬学コース（東北薬科大学）



心理学コース（宮城学院女子大学）



文系コース（東北学院大学）



福祉コース（高齢者福祉複合施設「カリタスの丘」）

バレー ボール部

「高きを仰ぐ」を掲げて

尚志コース3年 高橋 和

私たちバレーボール部は、現在3年生7名、2年生9名、1年生7名の23名で活動しています。

私たちの部は、「高きを仰ぐ」という部訓を掲げて、全国大会出場という高い目標に向かって、毎日努力しています。現在のチームは、県ベスト8の戦績ですが、更に上位の結果を残して目標を実現するために、そして、何よりも部の活動を通じて大切な姿勢を身に付けていくために、私たちはプレー以外の普段の日常生活からきちんと正していくことに取り組んでいます。このような取り組みを通して、私たちの活動が常に周りの人に支えられながら成り立っているということが理解でき、感謝する気持ちが生まれてきました。日々の活動では、意見が合わず衝突したり、プレーがうまくいかず壁にぶつかることもあります。お互いに声を掛け合って高め合えるとても充実した部活動です。



「高きを仰ぐ」の部訓を胸に、最高の仲間たちと日々頑張っています。

科学部

2012年5月21日は平安時代まで遡る1080年以來の日本の広い範囲で観測される金環日食の日でした。残念ながら、仙台では金環日食ではなく、太陽が月に

91%隠される部分日食でしたが、科学部員一同はこの日に向けて、様々な角度から日食による空の変化を記録しようと試みました。望遠鏡に映した太陽の形をスケッチで記録する観測班、気温・照度・太陽光による温度上昇の測定班、ミミズの負の光走性との関連を調べる生物班、ピンホールカメラの原理を用いた影や雲量の撮影などの記録班がそれぞれ、事前に計画を立て、測定・観察に入りました。

当日は天候に恵まれ、午前6時に集合した後、6時23分の欠け始めから9時9分の欠け終わりまで、観測を続けることができました。最も太陽が欠ける7時40分頃は明らかに周囲の明るさ、気温が下がり、生徒たちは驚きをもって、それらをデータとして残していました。この様子はNHKの取材を受け、生徒たちは多少緊張しながらも受け答えも行っていました。顧問としても、改めて生徒たちの探究心に気づかされた一日でした。

(顧問 長谷川 夢仁)



日食時の照度の測定



天体望遠鏡にて観測

吹奏楽部

「普門館」に立って

尚志コース3年 池田 奏子

日々厳しい練習を積み重ね、去年の全日本吹奏楽コンクールでは初の全国大会出場を果たす

ことができました。全国大会出場という夢は成し遂げたものの、結果は銅賞だったので今年は「全国大会金賞」を目標として掲げ、実りある充実した練習を重ねていきたいと思います。先輩方が築き上げてきた伝統を引き継いでいながらも、自分達の代の個性を活かし新しい伝統を築き上げていきたいです。

全国大会常連校になることは決して簡単なことではなく、少しでも自分達に甘さが出たり、向上心が欠けてしまえば強豪の全国大会常連校と並ぶことはできません。毎日の練習時間を1分1秒無駄にすることなく、部員全員で団結し、目標達成に向けて日々成長していきたいと思います。



書道部

8月9日から14日、藤崎本館7階催事場にて開催されました第13回書道部書道展に、今年も大勢の皆様方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

(顧問 高橋 真理・部員一同)





バドミントン部

中学・高校でそれぞれ男女揃って
全国大会で結果を出すことができました。
たくさんのご声援、
ありがとうございました。



平成24年度 全国高等学校体育大会 高松宮記念杯
第63回全国高等学校バドミントン選手権大会

＜8月1日～6日 福井県福井市＞

女子

◆女子 団体戦 準優勝

〔主 将〕我妻美沙紀(3年)
〔副主将〕小池 紗葉(3年)
〔マネージャー〕亀山 真緒(3年)
鳥居 彩乃(3年) 山本 萌(3年)
鳴海愛結果(2年) 飯島 真依(2年)
後藤 くに(2年) 重山 智佳(2年)

◆女子 個人ダブルス 第3位

鳥居 彩乃(3年) / 小池 紗葉(3年)

◆女子 個人シングルス

ベスト8 我妻美沙紀(3年)
ベスト16 鳥居 彩乃(3年)

男子

◆男子 団体戦 ベスト8

〔主 将〕大宮 健(3年)
〔副主将〕小野寺祐仁(3年)
浅原利希哉(2年) 河原 大樹(1年)
佐藤 翔(1年) 篠崎 孝浩(1年)
菅原 栄史(1年) 高橋 歩夢(1年)
吉岡 和真(1年)

インターハイを終えて

高校女子 主将 我妻美沙紀

私たち女子バドミントン部は8月1日から6日まで福井県で行われたインターハイに出場してきました。結果は団体が準優勝、女子ダブルスは鳥居小池組が第3位、女子シングルスは我妻がベスト8でした。団体戦に関しては昨年のインターハイ、今年の選抜はベスト8で負けてしまい思うような結果を残すことができませんでした。

今回のインターハイでは結果を残したいという気持ちが強かったです。準決勝まではすべてストレート勝ちでしたが、決勝では1対3で負けてしまいました。しかしどの試合も最後まであきらめず戦うことができました。このような結果を残すことができたのは顧問の先生方、校長先生をはじめとする学校の先生方、応援してくれる方々の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。そして、これからも勉強とバドミントンどちらも頑張りたいと思います。

高校男子 主将 大宮 健

8月1～6日に福井県で行われた北信越インターハイで見事団体ベスト8に入ることができました。これまで一回戦敗退、二回戦敗退という結果だったので、とても嬉しかったです。日々仲間と共に努力し続けたことが、自信に繋がり、実力を発揮することができたと思います。これまで顧問の畑山先生から、技術は勿論のこと、礼儀や挨拶などの大切さも指導頂いたおかげだと思っています。また、今回の経験で各々が自分の課題を見つけることができたので、後輩たちには今後に生かしてほしいと思います。日頃僕たちを支えてくれている家族や先生方への感謝の気持ちを忘れず、伝統のあるチームとして日本一になってほしいです。

東北大会を終えて・・・全国大会に向けて

中学男子 主将 野村 拓海

東北大会での団体は、全員の力で優勝することができました。しかし、個人では惜しくもダブルス2位という結果に終わってしまいました。みんなが応援してくれた中で、2位という悔しい結果でしたが、その悔しさを胸に全国大会で団体・個人ともに優勝を目指したいと思っています。その為、全国大会までの残り1週間、より優勝に近づくため日々の努力をかかずに頑張っていきます。

中学女子 主将 高橋 英里

私たちは8月初旬に岩手県奥州市で行われた東北大会に出場しました。東北大会では団体3位という結果で全国大会に出場することが決まりました。しかし、個人戦は思うように自分たちのプレーが出来ず悔いの残る試合をしてしまいました。8月下旬から行われる全国大会では私たち中3にとって最後の試合になるので、今まで練習してきたことを120%以上だし、最高の試合ができるように残り少ない時間を有効に使い、良いコンディションで全国大会を迎えられるよう頑張っていきます。大会では上位入賞できるよう全力でがんばります。

男子バドミントン部 大健闘！

平成24年度
第42回全国中学校
バドミントン大会
＜8月20日～23日 千葉県船橋市＞

◆男子 団体戦 第3位

◆男子 個人ダブルス 準優勝
野村 拓海(3年) / 浅原 大輔(3年)

平成24年度
第33回東北中学校バドミントン大会
＜8月3日～5日 岩手県奥州市＞

男子

◆男子 団体戦 優勝

〔主 将〕野村 拓海(3年)
〔副主将〕海老澤年幾(3年)
浅原 大輔(3年)
鈴木 朋弥(3年)
植松 康輝(3年)
荻澤 智樹(2年)
日野 滋斗(1年)

◆男子 個人ダブルス 準優勝

野村 拓海(3年) / 浅原 大輔(3年)

◆男子 個人ダブルス 第3位

植松 康輝(3年) / 荻澤 智樹(2年)

女子

◆女子 団体戦 第3位

〔主 将〕高橋 英里(3年)
〔副主将〕清水 一希(3年)
〔マネージャー〕吉川 正純(3年)
財間 七彩(3年)
齋藤 優衣(3年)
結城咲也子(3年)
徳能あすか(2年)
大関 令奈(2年)

◆女子 個人ダブルス 第3位

齋藤 優衣(3年) / 結城咲也子(3年)

インターハイ出場おめでとう！

平成24年度全国高等学校総合体育大会

ソフトテニス

◆女子 個人ダブルス
小岩 楓(3年) 畠山 遥(3年)

空手道

◆男子 個人「形」【第5位】
本郷 健登(3年)

◎インターハイ出場に際し、ご支援いただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

同窓会だより

幼稚園

＜集まりの日＞

幼稚園では6年生になった卒園生が幼稚園に集まる日があります。「6年生になったら、幼稚園に来るからね。」と言って卒園してから6年がたち、大きく成長した子どもたちとの再会は毎年とても楽しみです。昨年度も2012年2月4日に『集まりの日』がありました。震災の年ということで参加人数が心配されましたが、多くの卒園生が集まり元気な姿を見せてくれてとても安心しました。「これ、覚えてる!」と昔遊んだおもちゃを手を取ったり、ひと部屋ずつ懐かしそうに見て回ったりとそれぞれのやり方で幼稚園時代を懐かしんでいました。

今年度は2月2日に行う予定です。

小・中学校

同窓会会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

小中一貫校として聖ウルスラ学院英智小・中学校がスタートして今年7年目を迎え、同窓会会員も246名と大きな家族となりました。1回生の会員は今年20歳となり、いよいよ社会人として「地の塩、世の光」となって各方面で活躍されていらっしゃることでしょう。

さて、私たち英智小・中学校の同窓会設立時は、既存の伝統ある聖ウルスラ学院小学校(1950年創立)同窓会とは別の独立した形でスタートしていましたが、このたび聖ウルスラ学院小学校同窓会と組織を一体化し、より充実した同窓会に発展させていくことが両同窓会の総会(幹事会)で承認されました。また、それに伴い、新同窓会会長に和野邦彦氏(聖ウルスラ学院小学校第14回生:前聖ウルスラ学院小学校同窓会長)、新副会長には白鳥司氏(聖ウルスラ学院英智小・中学校第1回生:前小・中学校同窓会長)が就任することとなりました。これから聖ウルスラ学院英智小・中学校同窓会という新体制となっていきますが、会員の皆様におかれましては、今後も変わらぬご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(同窓会事務局より)

高等学校

今年5月19日(土)開催の総会では、同窓会の皆様の御協力に感謝のうちに「同窓会50周年記念の名簿」を披露することが出来ました。この名簿が同窓生の皆様の親交と友情を深めるために役に立ちますようお願いしております。また、東京支部の皆様の参加も頂き、竣工しました小・中学校キャンパスのホールにて懇親会を催し、一本杉に統合されたキャンパスの姿をご紹介します運びとなりました。いま、学院は元気を取り戻しつつあります。同窓会では、母校の東日本大震災への支援を続行することが総会にて承認されました。今年も力を合わせて活動してまいります。

会長 今野 麻里

卒業生からの メッセージ

歯科医師
小学校 37回生
増田 宣孝さん



「天にましますわれらの父よ 願わくはみ名の尊まれんことを」朝のお祈りから始まり、帰りのお祈りまで、まさに神様と一緒の学校生活でした。四季折々の行事を通して学んだウルスラの精神は私の頑張りの源であり宝物です。

聖書の言葉に「まずあなたの隣の人を愛しなさい」という一節があります。私が過ごした小学校時代は、現在問題視されているようなイジメなどもなく、学年の枠を超えて何かをするということがたくさんありました。給食当番や掃除当番、様々な行事など、そのような活動の中で年齢の違う人たちと触れ合い、仲良くすること、優しくすること、助け合うことを学びました。中でも夏期学校は4、5、6年生が一緒になって、宿泊施設に出向き、泊りがけで行う校外学習を通して友情を深めるという意義のある、思い出深い体験でした。そのような体験を通して、「隣人愛」の教えが自然と体に染み込んでいったのだと思います。他にも、宗教の授業があったことで、より身近に神様の存在を感じることができ、聖書の教えも心の基盤として身につきました。

現在、私は歯科大学を卒業して歯科医師として働いております。そして昨年仙台に戻り、父と一緒に仕事をしています。医院では、マイクロスコープを使って肉眼で見られないような部位も確認できるようになり、より精密な治療を行っています。患者さんとしてウルスラの先生もいらして下さり、先生から「先生」と呼ばれることに不思議な感覚をおぼえます。しかし、こうやって何年経っていてもいらして下さる先生がいらっしゃることで地域に繋がりを持つことができ、少しでもご恩返しができる事を嬉しく思います。また、患者さんの立場に立って一緒に考えたり、納得していただけるようにと頑張れるのは、ウルスラで学んだ精神があるからだ実感しています。

これからも地域の人達に信頼される歯科医師となれるように精進したいと思います。

Piano Violin



生徒募集中

どなたでも随時入室できます。

聖ウルスラ学院英智音楽教室

～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は140名の生徒と共に新年度を迎えることができました。日頃より多くの皆さまのご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

当教室は創設65年、聖アンジェラの精神に導かれ、生徒一人一人と音楽の楽しさ、美しさを学び豊かな心が育まれることを願いながら努力してまいりたいと思います。

第65回

定期演奏会のお知らせ

と き/平成 24年 11月 18日(日)
10:00~17:00

ところ/仙台市若林区文化センター ホール

入場無料

どうぞ、お問い合わせをお越しください。

幼稚園 母の会
会長 乙供 千貴子



まだ小さく、制服もぶかぶかだった入園当初の子どもたちが、ふたば組、つばみ組、はな組と学年が上がるにつれて大きくなっていく姿は、親としてとても大きな喜びです。

家庭内における親から子への、社会性・人間性の教育が重要である事は確かですが、同じ年代の子どもたちが集団生活をおくる中で、徐々にお互いを尊重し、上手にコミュニケーションを取り合えるようになっていく様子を見ますと、集団生活の重要性を感じると共に、子どもたちの頼もしさをも感じます。これも、佐取園長先生をはじめ、先生方の細やかな心配りと教育によるものと日々感謝しております。

便利性の増す人間社会ではありますが、それによって、私たちが子どもの頃には考える事も経験もしなかった様々な問題も生じてきていると思います。私たち親は、先生方のお力をお借りしながら、そのような変化に柔軟に対処し、また、子どもたちには、きちんと守るべき事柄というものを忘れずに、大きく育てて欲しいと願うばかりです。

小・中学校 高等学校 父母教師会
会長 渡邊 裕介



皆様、「大人」と言う言葉の語源をご存知でしょうか。「大人」の語源、それは諸説あるようですが「音なし」から来たそうです。身の回りでどんな事があっても決して声を荒げる事無く、常に冷静で「大声を出さない」ことの意味で、「大人しい」と言う言葉もここから生まれたそうです。英語でも同様に、「gentleman」の“gentle”が「物静かな」と言う意味からもわかります。

親が子を叱る、注意をする場合、時として感情的になってしまい声を荒げてしまう事もあるでしょう。親子ですから致し方無いのかも知れませんが、子を自分の「期待通りに」動かそうと思った瞬間から葛藤が始まります。そういう意味では私自身、実はまだ本当の意味での大人ではないのかも知れません。では本校の先生方はどうでしょう？本校の先生方が児童、生徒を注意する場合、目を見て穏やかに諭す様に話しかけております。「自分の言いたい事は穏やかに主張する」という方法論も併せて教えて頂いてもおります。もちろん必要がある場合や危険な場合には声を大にして指導を頂く場合も有りますが、家庭では出来ない事を学校で実践して頂いている様に思えてなりません。「感謝」の一言では足りないと思う今日この頃です。

聖ウルスラ学院英智小・中学校 教育研究開発学校（教育課程特例校）

第8回 「英智公開研究会」（実施要項案）

9月1日現在

◎研究主題：言語技術がもたらす論理的思考力と表現力の育成

——目標分析に基づく発展的な学習過程の研究と評価——

- ◎日 時：平成24年12月1日（土） 8：30～16：00 （受付 8：00～）
◎会 場：聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館
◎主 催：聖ウルスラ学院英智小・中学校
◎後 援：宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会（予定）
◎参 加 費：一般/1,000円（資料代を含む） 学生/無料 <別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます>



当日のスケジュール

受 付	オープニング セレモニー	授業①	授業②	授業研究会	昼食	パネルディスカッション	閉会
8:00～ （講堂）	8:30～9:00 （講堂）	9:10～9:55 （1・2階 普通教室）	10:05～10:55 （2～4階 普通教室）	11:10～12:30 （3・4階 普通教室）	12:30～13:20 （2・3階 普通教室）	13:20～15:45 （講堂）	15:45～16:00 （講堂）

講師・
指導助言者

文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 常 盤 豊 氏
文部科学省高等教育局企画官 土 田 雄 氏
日本幼児教育振興会副理事長 合 屋 秀 宇 氏
つくば言語技術教育研究所所長 三 森 ゆりか 氏
宮城教育大学学長 見 上 一 幸 氏

兵庫教育大学大学院教授 加 藤 明 氏
宮城教育大学教授 松 岡 尚 敏 氏
聖ウルスラ学院英智小・中学校指導主事 水 室 眞 也 氏
前中央教育審議会副会長/本学院理事長 梶 田 叡 一 氏

授業① 9：10～9：55 （1・2階）

教 科	学 年・指 導 者	単 元	教 室
言語技術	4年B組 佐藤 健	絵の分析	4 - B 教室
国 語	5年A組 猪股 愛	セロ弾きのゴーシュ	5 - A 教室
英 語	4年A組 笹森 宣子	英語の問答ゲームをしよう	英 語 室
社 会	3年B組 持館 美樹	ゴミのゆくえ	3 - B 教室
算 数	1年B組 石川 明子	どんなしきになるのかな	1 - B 教室
理科（生活）	1年A組 中條佐知枝	いきものとなかよし	1 - A 教室

授業② 10：05～10：55 （2～4階）

教 科	学 年・指 導 者	単 元	教 室
言語技術	8年1組 渡部久美子	絵の分析	T1-8-1教室
国 語	7年A組 川戸 理子	詩を読む	7 - A 教室
社 会	5年B組 佐々木彩香	自然災害を防ぐ	5 - B 教室
英 語	7年C組 木村侑香子	英語で議論しよう	英 語 室
英 語	9年1組 佐々木真由美	英文を再話してみよう	T1-9-1教室
数 学	7年B組 菅野 真澄	空間図形	7 - B 教室
理 科	3年A組 佐藤 雄一	風とゴムで動かそう	3 - A 教室

授業研究会 11：10～12：30 （3・4階）

〈教科〉 言語技術部会 三 森 ゆりか 氏
国語部会 常 盤 豊 氏
英語部会 （一未 定）
社会部会 松 岡 尚 敏 氏
算数・数学部会 加 藤 一 幸 氏
理科部会 見 上 眞 也 氏
" 水 室 眞 也 氏

パネルディスカッション 13：20～15：45 （講堂）

〈パネラー〉 常 盤 豊 氏
見 上 一 幸 氏
土 屋 秀 宇 氏
三 森 ゆりか 氏
〈コーディネーター〉 梶 田 叡 一 氏

閉会の辞（感謝の言葉） 15：55～16：00 （講堂）

聖ウルスラ学院英智小・中学校 / 高等学校校長
伊 藤 宣 子

平成25年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

校 種		募集定員		出願日/出願期間		試験日		試験内容		合格発表		体験入園/オープンスクール等	
幼稚園		3年保育/男女 60名 2年保育/男女 40名		11月1日(木)		※詳しくは要項・願書をご覧ください 要項・願書配付期間……10月1日(月)～10月31日(水)				〈公開保育〉10月5日(金) 〈体験入園〉10月13日(土)			
小・中学校 文部科学省 指定 教育課程 特例校 研究開発学校		小学校課程 新1年生 (F1年生)		前期	10月1日(月)～ 10月31日(水) 日祝及び10/22(月)を除く	11月10日(土)	運動面・知能面・ 生活面の検査 面接(本人と保護者)	11月12日(月)	〈学校教育説明会〉 ◎学内会場 ①9月1日(土)9:30～ ②10月27日(土)14:00～ ◎学外会場 仙台ロイヤルパークホテル 9月1日(土)14:30～				
		男女 60名		後期	11月19日(月)～ 12月5日(水)	12月8日(土)		12月10日(月)					
		中学校課程 新1年生 (S7年生)		前期 後期	12月3日(月)～ 12月21日(金)	1月7日(月)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数) 面接(本人と保護者)	1月8日(火)					
		男女 70名		後期	1月4日(金)～ 1月12日(土)	1月16日(水)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数・ 社会・理科)	1月17日(木)	〈新中学1年生対象 オープンスクール〉 10月20日(土)9:30～				
		公立中高一貫校を受験される方にお勧めの入試です											
高等学校		特別志学コース ＜Type1＞ 男女 40名		奨学生推薦	1月4日(金)～ 1月11日(金)	1月16日(水)	作文、面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月17日(木)					
				一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(金)～ 1月21日(月)	A日程/1月28日(月) B日程/1月30日(水)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月4日(月)	〈オープンスクール〉 10月20日(土) 13:30～				
		特別志学コース ＜Type2＞ 男女 60名		奨学生推薦	1月4日(金)～ 1月11日(金)	1月16日(水)	作文、面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり	1月17日(木)					
				一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(金)～ 1月21日(月)	A日程/1月28日(月) B日程/1月30日(水)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月4日(月)					
		尚 志 コース 140名 ※男子:奨学生推薦10名、他		奨学生推薦			面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり			〈特別志学コース 見学会・相談会〉 ①10月27日(土)13:30～ ②11月10日(土)13:30～			
				推薦	1月4日(金)～ 1月11日(金)	1月16日(水)	面接(本人のみの個人面接)	1月17日(木)					
				AO (自己推薦)			作文 面接(本人のみの個人面接)						
				一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(金)～ 1月21日(月)	A日程/1月28日(月) B日程/1月30日(水)	学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	2月4日(月)					

☆高等学校:平成25年度入試から、一般入試において男子も尚志コースへスライド合格判定をいたします。

ただし、尚志コースに從來から設置しております1年次の大学進学選抜クラスに所属できる力が認められることを基準に男子の尚志コーススライド合格を総合判定します。

幼稚園のスクールバス

＜主な運行路線＞



※平成24年度 9月1日現在

小・中学校/高等学校のスクールバス

遠方より通学する小・中・高校の児童・生徒の
安全と便宜を図るため
各方面に朝と帰りにスクールバスを運行しています。

＜運行コース＞

- Aコース…鶴ヶ谷・沖野方面
Bコース…泉・高森直行便
Cコース…岩切・宮町方面
Dコース…大野田方面
Eコース…名取・ゆりが丘方面
Fコース…泉中央方面

※平成24年度 9月1日現在

* この運行コースは平成24年度のもので、
ルートや停車場も次年度以降は変更される場合があります。
* 各コースとも定員となった場合は、低学年優先となります。



学校法人 聖ウルスラ学院

聖ウルスラ学院英智

幼稚園

〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号
TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014

小・中学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431

高等学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279

法人事務局

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

<http://www.st-ursula.ac.jp/>



〔編集委員〕委員長/高橋 直見(法人事務局長) 幼稚園/庄子 美和 小・中学校/結城 みや・木村 侑香子 高等学校/鈴木 祥子・内池 千恵子

〔編集事務局〕 今野正則（法人事務局次長）

[印刷] 株式会社アド東北プロ